

CASBEE京都-新築(2015年版)
大和ハウス工業株式会社 京都支社新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音				3.4	0.15	-	-			3.4
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能			遮音等級=T-2以上	4.2	0.40	-	-			
1.2.2 1 開口部遮音性能				5.0	0.60	-	-			
1.2.2 2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-			
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-			
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-			
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-			
2 温熱環境										
2.1 室温制御				2.6	0.35	-	-			2.6
2.1.1 室温				3.0	0.50	-	-			
2.1.2 1 室温				3.0	0.38	-	-			
2.1.2 2 外皮性能				3.0	0.25	-	-			
2.1.2 3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				2.6	0.25	-	-			2.6
3.1.1 1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		1.8	0.30	-	-			
3.1.1 2 方位別開口				1.0	0.60	-	-			
3.1.1 3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-			
3.2.1 1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	-	-			
3.3 照度				3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				3.6	0.25	-	-			3.6
4.1.1 1 化学汚染物質			内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用	4.0	0.50	-	-			
4.1.1 2 アスベスト対策				4.0	1.00	-	-			
4.2 換気				3.3	0.30	-	-			
4.2.1 1 換気量				3.0	0.33	-	-			
4.2.1 2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)	居室面積の1/30以上の開閉可能な窓を確保している	4.0	0.33	-	-			
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-			
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-			
4.3.1 1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-			
4.3.1 2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-			3.3
1.1.1 1 広さ・収納性				3.0	0.40	-	-			
1.1.1 2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-			
1.1.1 3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-			
1.2.1 1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)	事務室の階高2.7m 自然を感じる事ができる窓を	5.0	0.33	-	-			
1.2.1 2 リフレッシュスペース			執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースの確保	4.0	0.33	-	-			
1.2.1 3 内装計画	●自然	D(独自基準)		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-			
1.3.1 2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-			
1.3.1 3 衛生管理業務				-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震				3.0	0.30	-	-			3.0
2.1.1 1 耐震性				3.0	0.50	-	-			
2.1.1 2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-			
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		3.4	0.30	-	-			
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-			
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-			
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔			床:タイルカーペット、壁:ビニルクロス、天井:ボード類	5.0	0.10	-	-			
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-			
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用	5.0	0.20	-	-			
				3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性					2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり					2.8	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				2.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	格子状ルーバー設置によるガラス面の反射防止	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	建物内外を連関させる豊かな中間領域の形成	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	中・高木、ピロティ等の水平投影面積率:30%以上	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm=0.75	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.73	4.0	0.50	-	-	4.0
				LED照明設備の設置	4.0	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
					3.0	1.00	-	-	
					3.0	0.50	-	-	
					3.0	0.50	-	-	
					3.0	-	-	-	
					3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				自動水栓に加えて、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	吸音材、ビニル系床材	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	LGS+PB、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1					-	-	-	-	
2					3.0	0.50	-	-	
3					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				LCCO2排出率=80%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止				ガス燃焼機器を使用しない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1					3.0	0.25	-	-	
2					3.0	0.25	-	-	
3				駐輪場・駐車場の確保、出入り口を複数設置	4.0	0.25	-	-	
4					2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1					3.0	1.00	-	-	
2					-	-	-	-	
3					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1					3.0	0.70	-	-	
2					-	-	-	-	
3					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1				チェックリストの項目の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2		●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる